

せんだん

平成 31 年 3 月 1 日
第 3 8 号
編集・発行
賀茂小学校
TEL88-0400
kamore@toyohashi.ed.jp



【お世話になった地域の方々に、感謝の気持ちを込めて育てた花をプレゼント】

「平成最後の卒業生 卒業おめでとうございます」

豊橋市立賀茂小学校 校長 小村 剛

日が傾き始め、雲の切れ間から太陽の光が射し、運動場を照らし始めた。家路に向かう子どもたちが何やら楽しそうに話している。後何日かで卒業を迎える六年生である。こゝ最近、登校時に通学団登校している六年生に声をかけては「中学校では何がしたい」と聞くと、ある子はハンドボール部に入るか陸上部に入るかを迷っているという。ある子は、勉強が心配という子もいる。不安と期待が入り混じりながら、来月にはいや応なしに中学生になる。

平成最後の年が明け、四月三十日で平成の終わりを告げ、三十年間の幕を閉じる。私は平成元年にこの豊橋の正教員となり、娘もその年に生まれた。当時の小渕官房長官がテレビの前で、色紙に「平成」と紹介したのが印象的だった。それから三十年、コンピュータが目まぐるしく発達し、通信機能では固定電話が携帯電話となり、ポケベル・PHS・携帯電話、スマートフォンへと進化し私たちの生活には欠かせないものになるなど、様々なものがアナログからデジタル環境へと変遷していった。便利になる一方、新しいトラブルも起こるようになった。また、自然災害も多く、被災された人々は延べ何万にも上った。衷心よりお見舞い申し上げたい。

思い起こすと、平成の三十年間で担任として卒業生を八回送り出し、校長として今回、三回目の卒業生を送り出す。いつも思うことだが、卒業期に、この子どもたちが将来どんな人たちと出会い、どんな人生を送るのか、楽しみでもあり、心配でもある。どちらかと言えば「心配」の方が大である。だが、時折、卒業生たちが、「思い出会」などと称して集まり、自分が招待されるが、

先ほどの「杞憂」はかけらもなく、子どもたちは一生懸命、楽しく人生を謳歌している。嬉しい限りである。

さて、話は戻るが、六年生はもうすぐ卒業である。六年前、お家の人と手を携えてこの賀茂小学校に入学してきた。いろいろなことを学習し、学校行事等を通して心も体も立派に成長したのではないかと思う。その思い出のページを心の片隅に残しながら時折開き、つらいことがあっても、この経験を支え・糧として立派に生きてほしいと思う。人との「絆」を強めることが今の時代には必要と言われているが、その中でも一つ、自ら「あいさつ」を実行できる大人になってほしいと思う。それは、言葉だけでなく、例えばエレベーターで視線が合った時に笑みを返したり、頭を下げたりして無言のあいさつもできるような大人になってほしい。自らあいさつをすることは、相手に対して、自分の心は開いていますと示している。

最後になりましたが、賀茂の校区は地域で子どもを育てる気風を常にもっています。これからも家庭・地域・学校がともに手を取り合い、「かしこく、やさしく、つよい賀茂っ子」を育てていきたいと思えます。ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



平成 30 年度 賀茂小の教育活動をふりかえる

～アンケート・学校関係者評価を生かして～

賀茂小学校は、児童・保護者に対してアンケートを行ったり、評議員のみなさんに意見をうかがったりして、平成 30 年度の教育活動を振り返りました。

学校評議員会では、様々な視点・お立場から、ご指摘等をいただきました。高く評価していただいた「開かれた学校づくり」については、新学習指導要領や時間数確保との両立を図りながら来年度の取り組みに力を入れていきます。

改善策の具現化に向けて、全職員でよりよい学校づくりをめざしていきます。

中期目標	重点努力目標（評価項目）		総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
「わかる、楽しい授業」を基盤にした確かな学力の育成	外国語による読む、書く、話す力の育成	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーションにおいて実際に活用できる能力を養う。	A	お話しタイムや集会、授業での話し合い・対話の場を大切にして、伝える力や考えを受け止める姿勢を育てることができた。英会話活動においては、授業の充実を図るだけでなく、身につけたことを活用する場や方法をさらに考えていく必要がある。	A	「話す・聞く」の場面づくりと意識化が必要である。一人一人のつまづきをとらえ指導する環境づくりを一層進めてほしい。	子ども同士の対話の場を意図的に取り入れる等、伝え合う場を通して、学習内容を確実に身につけるようにする。また、授業改善を引き続き進め、一人一人の意欲と学力を高める授業づくりをめざす。
	「話す・聞く」力の育成	発達段階に応じて語形を身につけ「伝え合う」ためのスキルと学習規律を養う。					
	効果的な少人数指導と基礎基本の定着	チャレンジテストによる習熟などを計画的に進め、基礎的・基本的な習得をめざす。					
自発的に活動しようとする意識を高め、心豊かな子を育てる教育活動の推進	子どもの自治運営能力の育成	学校集団としての意識を高め、自発的に活動をしようとする態度を育てる。	B	学級活動や行事、縦割り活動、委員会活動等で、企画・運営する経験を重ねることで、自発性を高めることができた。また、道徳をはじめ、校外学習等で、活動内容を工夫し、社会性が身についてきた。	B	自発性・自主性の指導を進めているところは評価できる。特別の教科となった道徳の研究を進めてほしい。	学校の一員としての意識を自覚し、さらに自発的に活動できるように、縦割り活動の充実を図る。また、道徳の授業をはじめ教育活動全体において、社会性を育てる内容を意識的に取り入れていく。
	モラル、マナー等社会性の育成	道徳で得た道徳的な心情、判断力を実践に生かせる子どもを育てる。					
規則正しい生活習慣を培い、心身ともにたくましい子どもの育成	健康でたくましい体の育成	自分の健康に関心をもち、身体を鍛える活動に積極的に参加できる子どもを育てる。	A	1日100分間運動の指導を図り、子どもたちの体力向上に努めることができた。ノーメディアデイや担任と養護教諭との保健指導等において、自分の身体や健康に関心をもち、生活習慣について考えることができた。	A	ノーメディアデイは、とてもよい取り組みなので続けてほしい。あいさつは、学校だけでなく家庭や地域でも指導をしていくことが重要だと考える。	今後も具体的な目標設定をもとに、体力向上に努め、健康面では養護教諭と担任が連携した指導を図る。あいさつについては、場面をとらえて指導し、継続的に認め励まし、あいさつの飛び交う学校づくりに努める。
	コミュニケーション能力の育成	いつでも、どこでも、だれとでも元気にあいさつ、返事のできる子どもを育てる					
開かれた学校づくりの推進	地域の連携と人材の活用	地域ボランティア、親ガモの会、委員会、PTAなど、地域の人材を生かした教育活動を展開する。	A	地域と共に子どもを育てる学校の方針を職員が理解し、指導効果が表れている。HPやメール、小学校だより等を通して、地域や保護者や地域に学校が理解されている。	A	地域の人材活用を図ることにとどまらず、子どもが地域の中で学び、地域で生き生きと生活していることが高く評価できる。	地域教育ボランティアのさらなる拡充に努めたい。今後は、地域の人材をさらに生かす学習内容や活動を考えていく。
	迅速、正確な情報発信と受信の活性化	学校から地域への情報発信や学校に対する意見・要望の収集に努める。					
安心・安全な学校づくりの推進	命を大切に、周りの状況を把握し高判断できる子の育成	もしもの時に的確な判断で自分の命を守り、周りの人に気を遣えるよう、避難訓練を軸とした道徳指導や学級指導を実施する。	A	様々な状況を想定した避難訓練を計画・実施し、避難に関して、子どもたちの意識向上が図られた。子どもたちの安心・安全を第一に考え、通学路や校内の定期的な安全点検を行い、その状況を全職員で情報交換した。	A	様々な想定で避難訓練を実施し子どもの避難能力を高める等安全に関する学校内の準備や対応は評価できる。	子どもの安全に関する実践力や態度を育てるという目標を明確にし、子どもへの安全指導や安全に関わる準備対応について、一層の充実を図る。
	通学路において、安全点検、危険個所の把握及び対策	子どもの命の危険を人的ミスで起こすことのないよう、安全点検を確実にを行い、全職員で共有する。					

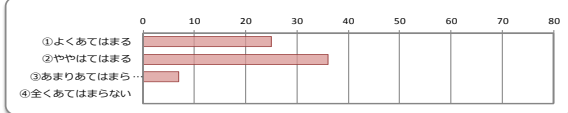
【総合評価】 自己評価をもとに 上記の A・B・C・D で評価】

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】

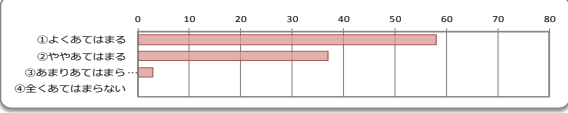
《保護者アンケート》 よりよい学校にするために

30年後期

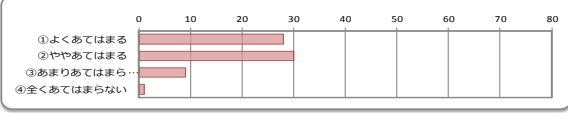
1 学校は、自ら学び、自ら考えたことを生かす子(知)を育てようとしている。



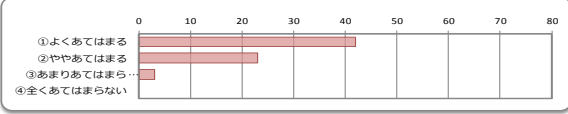
2 学校は、命を尊び、相手の気持ちを思いやる子(徳)を育てようとしている。



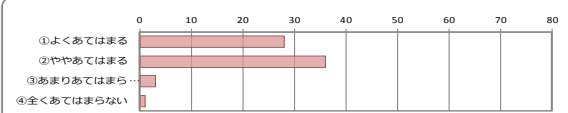
3 学校は、強い意志とたくましく生き抜く力を持つ子(体)を育てようとしている。



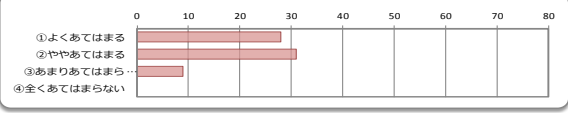
4 学校は、賀茂の地域にあった教育活動を行っている。



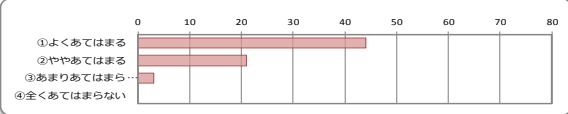
5 学校は、基礎学力をつけ、子どもの可能性を引き出す教育をしている。



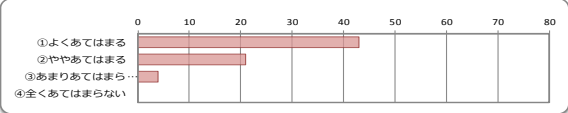
6 学校は、教育活動や子どもの様子を学校新聞、ホームページなどでわかりやすく伝えている。



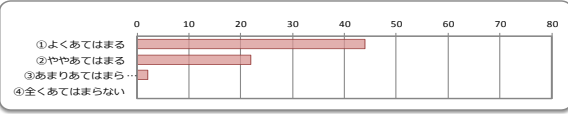
7 学校は、PTAや地域と協力して、子どもの安全を確保するように努力している。



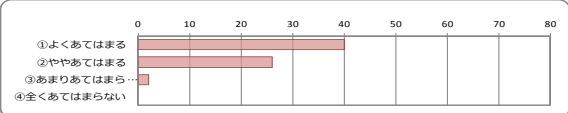
8 学校は、ボランティアや地域の方の力を生かして、子どもの教育活動を進めている。



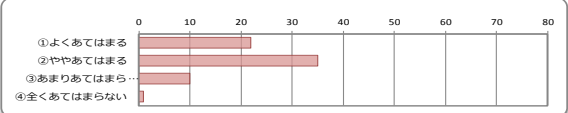
9 お子さんは、楽しく学校に通っている。



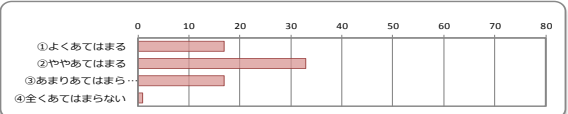
10 お子さんは、友達と仲良く過ごしている。



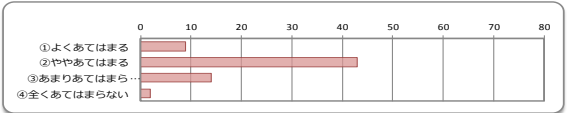
11 お子さんは、家であいさつができる。



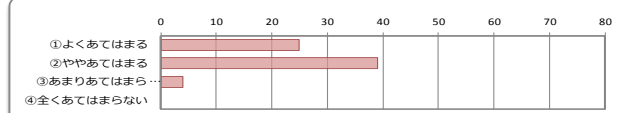
12 賀茂の子どもは、知り合いや地域の人にあいさつができる。



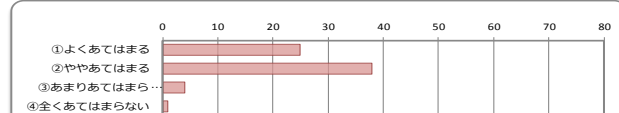
13 お子さんは、その場にあった正しい言葉遣いができる。



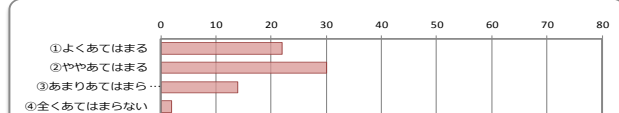
14 先生たちは、わかりやすい授業をしている。



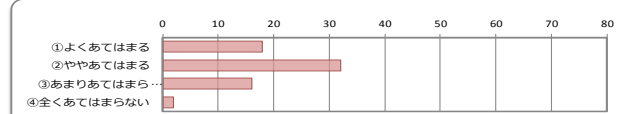
15 先生たちは、いじめや不登校のない学級づくりに努めている。



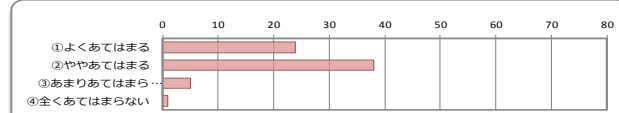
16 先生たちは、相談でき頼りになる。



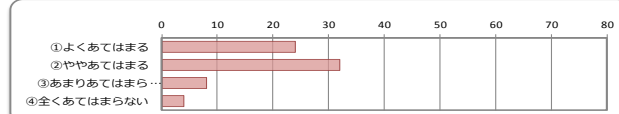
17 先生たちは、できるだけ保護者と話す機会をもとうとしている。



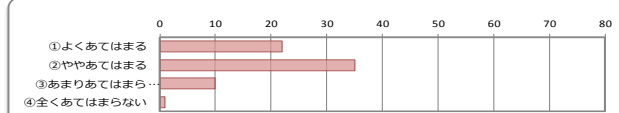
18 先生たちは、生活のきまりが守られるよう指導している。



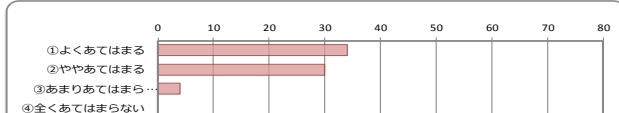
19 先生たちは、子どものよくできたことや努力を評価し認めている。



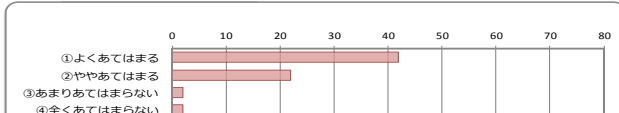
20 子どもたちは真剣にそうじに取り組み、学校や家庭などをきれいにしようとしている。



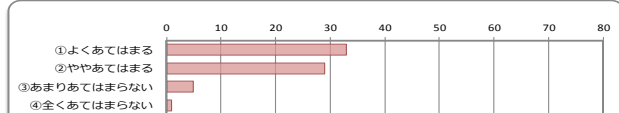
21 学校は、花を育てたり掲示物を工夫したりなど、うるおいのある環境整備に努めている。



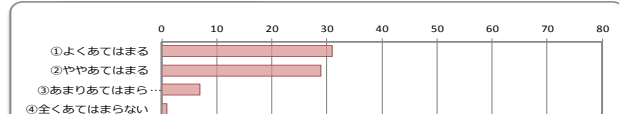
22 部活動では、先生たちが熱心に教えてくれている。



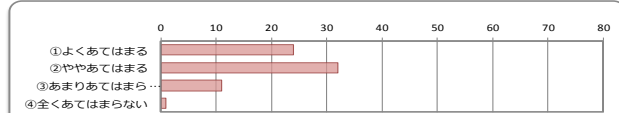
23 先生たちは、学校への問い合わせに対して、誠実に対応している。



24 先生たちは、熱心に子どもの指導にあたっている。



25 学校は、子どもたちが必要ときに困ったことや悩み事を相談できるよう努めている。



賀茂小学校の教育活動



入学式 14名の1年生が仲間入り



始業式 全校児童69名でスタート



はじめてのたてわりなかよし遠足



全校でどろんこ体験・田植え



4年生と5年生で野外活動



乗馬体験は今年で10年目



感動いっぱい学芸会

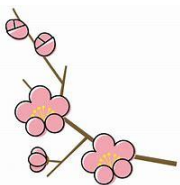


全力で走ったマラソン大会



お世話になった方々を囲んでひとのわ集会

- ◇ 新任式・入学式 四月五日
- ◇ 始業式 四月八日
- ◇ ウオークイン賀茂 四月二十四日
- ◇ 野外活動 五月二十一日・二十二日
- ◇ プール開き 六月十一日
- ◇ 三世代ふれあい活動 六月十五日
- ◇ 豊橋・学校のちのちの日 六月十八日
- ◇ 夏休みを迎える会 七月十九日
- ◇ 実りの秋を迎える会 八月三十日
- ◇ 校区合同運動会 九月十四日
- ◇ 乗馬体験 十月二日
- ◇ 就学時健康診断 十月十七日
- ◇ 観劇会 十月三十日
- ◇ 学芸会 十一月十六日
- ◇ 修学旅行 十一月二十八・二十九日
- ◇ マラソン大会 十二月十日
- ◇ 冬休みを迎える会 十二月二十三日
- ◇ ひとのわ集会 二月二十日
- ◇ ホタル放流式 三月四日
- ◇ 交通少年団退団式 三月四日



平成三十一年度の予定